

デーリー東北
2018年（平成30年）7月25日（水曜日）（14）

カレーで新たなにぎわい

六日町で「キャラバン」市民らに振る舞い



カレーの振る舞いを通して交流の輪が生まれた「カレーキャラバン」

八戸のサバ、食材に

カレーの振る舞いを通して新たなコミュニケーションの場をつくるプロジェクト「カレーキャラバン」が22日、八戸市六日町の鮮魚店「福真」の店頭で行われた。食欲をそそるカレーの香りに誘われるように続々と市民が集まり、にぎわいと交流の輪が生まれた。

（松原一茂）

カレーキャラバンは江口亜維子さん（石川県生まれ）、加藤文俊さん（京都府生まれ）の2人が中心となり、全国各地で展開。2012年からスタートし、八戸で76回目となった。

今回は八戸工業大の横溝賢准教授（情報デザイン）の呼び掛けで開催し、食材は市内で買いそろえた。メイン食材は八戸の新鮮なサバで、福真社長の福田充宏さんが調達。調理方法などもアドバイスした。

振る舞いが始まると、中心街を歩き交う人々が自然と集まった。サバ入りのカレーに関心を示し、「おいしい」「カレーにサバも合う」などの声が上がった。

福田さんは「魚町と呼ばれる六日町でカレーというのが面白い。中心街が新たなイベントで盛り上がって良かった」と喜んだ。

プロジェクトを研究に活用するという横溝准教授は「こうした緩やかなコミュニティ活動が八戸でもっと増えてもいいのでは。市民がどのように生活を楽しんでいくのかを考えるヒントになる」と話した。